



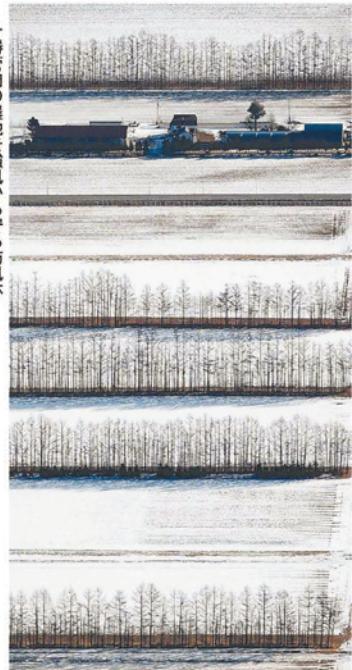
解答と解説は 22 ページにあります。

新聞で  
読解力アップ！

Do  
チャレ

ワークシート

## 十勝地方のスマート農業に支障



十勝管内の農地を強風から守る防風林  
（昨年12月24日、十勝管内芽室町、本社へりから（井上浩明撮影）

【帯広】農業王国、十勝の農地を守ってきた防風林をどう管理するか、十勝管内の農家が悩んでいる。戦前から植林された防風林は近年、農作業の効率化や衛星電波によるスマート農業の支障になるとして伐採が進み、帯広市内では過去約30年間で半減した。ところが昨年12月、日高山脈から吹き下ろす「日高おろし」の暴風被害が発生。防風林の役割を見直す動きも出始めている。（泉本亮太）

## 防風林管理 悩む農家

### 伐採で強風被害増 見直しも

「北海道新聞」2022年1月18日（火）朝刊  
十勝管内の農地を強風から守る防風林  
（昨年12月24日、十勝管内芽室町、本社へりから（井上浩明撮影）

し、70年ほど前に先代が植えた高さ20～30㍍の防風林が衛星電波の位置情報を乱す。老木が多く、強風で倒れる恐れや、農地に落ちる枝が生育や収穫を邪魔する問題もあり、18年に伐採を始めた。  
だが、その後、畑の風が強くなつた。「日高おろし」と呼ばれる暴風が十勝を襲つた昨年12月1日、高松さんのビニールハウスは無事だったが、近所の農家はハウスが破損。北海道新聞の調べでは、十勝での農業被害は840件を超えた。高松さんは防風林の重要性を再認識し、植樹を考えるようになつたといふ。  
格子状に並ぶ防風林は道東の農村景観の代名詞だ。このうち行政ではなく、農家が植える「耕地防風林」は1920年代に造成が始まった。近年は減少し、帯広市内で90年に417㌶であった総延長は2017年に220㌶へ半減している。十勝総合振興局が昨年行った農協青年部アンケート直してほしい」と話す。

では、防風林について約9割が「日陰ができて生産量が落ちる」と回答。「大型機械のGPS精度が落ちる」「『邪魔』との回答も多かった。一方で約5割が近い年、強風被害が増えたと感じる」とも答えた。

防風林の減少が、土煙の増加につながっているとの見方もある。19年5月、畑の土煙による視界不良で車両12台が衝突する事故が十勝管内浦幌町で発生。道立総合研究機構林業試験場道東支場（同管内新得町）の岩崎健太研究主任は「この事故をきっかけに、ゼロだった防風林の植林相談が20年以降は数件あり、講演の依頼も増えた」。

- (1) ■とありますが、農家にとって、防風林のどのような点が問題なのですか。2つ答えなさい。

- 
- 

- (2) 記事では、防風林の重要性を考えるきっかけとなったできごととして、どのようなできごとを紹介していますか。